

## 「安物のヘレン・ケラーやってみしてん」

## 視覚障害者 中山君江さんに聴く

「シリーズ「そーなんだ」②」

あなたは、視覚障害者の方と接したことはありますか。道端でガイドしたり、お茶を出す時は、何と声を掛けますか。

中山君江さんは、20代で目の病気にかかり弱視に、30代半ばで全盲になりました。

弱視になってから、10数年間が大変苦しかったそうです。体調や天気によっても、見え方が日々変わり、回復するの、先の見えない毎日でした。加えて耳も悪

かった当時のご自身を振り返り、「安物のヘレン・ケラーやってみしてん」とユーモアを交えながら例えられました。視覚障害者と接したことが無くても、ヘレン・ケラーなら私たちも知っています。

暗闇の中に自分を追い詰めていた時期も長かったそうです。視覚障害を持つ仲間との出会いや録音図書の見え方に触れ、目が見えなくても面白いことや好きなことを生活の中に増やし、笑って暮らす、と現在はいそがしく過ごされています。

講座では、中山さんが、近隣の視覚障害者を持つ仲間



中山君江さん



中山さんの楽しいお話に、参加者の皆さんも笑顔に。

のコツを伝授してくださいました。話後は『椅子に座ってもらう』『お茶やご飯を食べてもらう』介助を参加者同士で練習しました。

中山さんは、『してもらっていやなことや困ること』を、中々口に出せなかつたそうです。遠慮しないで言えるまですいぶん時間がかかりました。

実習では、中山さんから、「言わなきゃ通じないから言いますね！」や「そんなに親切にすると相手がボケますよ！自分で出来ることはしてもらって！」といった言葉がポンポン投げかけられました。場をぐいぐい引つ張る中山さんに、はじめはタジタジだった参加者もいつのまにか、中山さんに続け！と何度もチャレンジしていました。このトレーニングのおかげで、道端で声を掛けたり、場合によっては、相手にも事情がある、とやり過ぎせる度胸がついた気がします。

## ☆さりげないサポートのコツ☆

## ●物の場所を伝える時

お茶を出す時は一言、どこに置いたか、を伝えて。伝え方は、視覚障害者の方から見て、時計の短針と長針が指す向きで示す。時間で伝えると分かりやすいです。

## ●道端でガイドする時

動作に入る前に一言、終わる前に一言、確認を。目が見えずに動くのは想像以上に怖いもの。次に入る動作を確認してから進む、止まる、右（左）に曲がる。声かけがあるだけで動きやすいです。

## ●バス乗り場や信号で居合わせたら

バスが停車していたら、行き先を。信号では、青、赤、黄か。青信号が点滅し始めたか。大仰に介助するのではなく、状況を呟くだけでもボランティアになります。



お腹から見て、8時にお茶碗、2時の方向にお茶。6時にお箸。



周囲の音や人の気配がない時、視覚障害者の命を守る大切な存在が、音響式信号機です。

## ●お知らせ

## 今年で第14回目となりました。宝塚の夏の風物詩“夕暮れコンサート”を開催します。

夕暮れコンサートは、障害のある人ない人、そんなことを気にせずみんなで企画する手作りコンサートです。たこ焼きやクッキー、ジュースにビールなど、美味しいものもたくさん！かわいいピン留めやストラップなどの販売もあります。

ぜひ、一緒に歌って踊って楽しんで下さい。

夕暮れコンサート実行委員会のみなさんと一緒に企画してくれる方、

出演したいボランティアも募集しています。

日時：2017年9月2日（土）17：00 予定

場所：宝塚福祉コミュニティプラザ内

ぶらざこむ2スポーツ広場

昨年度の様子

